

KIBOKO



東北大学附属図書館報 木 這子 Vol.47, No.2 附属図書館創立111周年記念特別号



巻頭言 111周年を迎えた附属図書館の未来

附属図書館長 大隅 典子

本学の前身である東北帝国大学が1907年に創立された4年後、1911年6月14日に図書館が設立されました。今年はちょうどおめでたい「111周年」の節目に当たります。当時の図書館の建物は片平キャンパスにあり、今では史料館として使われていますが、川内キャンパスにある現在の本館は、1972年に、鬼頭梓氏の設計により竣工されました。ちょうど半世紀経った今でもなお、モダンな印象で開放的な学びの空間を創り出しています。

さて、開学時の東北帝国大学は「研究第一」を理念の1つとして掲げました。「実学尊重」という理念も、「虚学」に対峙する数学、物理学、化学等の自然科学として位置づけられており、つまり、本学は設立当初から「研究大学」を標榜していたこととなります。とはいえ、初代総長の澤柳政太郎は早くも1912年より江戸学の宝庫とも称される「狩野文庫」の受入を開始し、総合大学としての発展を想定していました。澤柳の願いが叶い、実際に法文学部が設置されたのは1922年で、今年は総合大学となって100年目ということでもあります。

大学図書館は学生の修学のみならず、研究活動を支える大事なインフラでもあります。また「門戸開放」の理念は、現在、さらに国際化の推進に繋がっています。学術情報のデジタル化にも対応した未来の図書館として、次の222周年を迎えられるよう、附属図書館もアップデートを加速していく必要があるでしょう。



▲1925(大正14)年に竣工した旧・図書館本館(現在は史料館)

Contents

- 巻頭言「111周年を迎えた附属図書館の未来」 ①
- 附属図書館111年の歩み ②
- 附属図書館創立111周年記念事業 ⑥
- 学生×若手の図書館職員による座談会 ⑧
- 附属図書館へのメッセージ ⑩



東北大学附属図書館報

KIBOKO

本誌「木這子(きぼこ)」は、東北地方の方言で「こけし」を意味します。最寄りの附属図書館本館・各分館等で配布しているほか、図書館ウェブサイトでもダウンロードできます。図書館の情報誌として、皆さんの学習や研究に、どうぞお役立てください。ご意見・ご感想は lib-som@grp.tohoku.ac.jp 宛にメールでお寄せください。

<https://www.library.tohoku.ac.jp>

附属図書館 111 年の歩み



年表や写真とともに、これまでの歴史や歩みをひもときます。

- 1907.6 ● 東北帝国大学創立
- 1911 ● 理科大学開設
- 1911.6 ● 図書館設置
- 1912.10 ● 狩野文庫を受入開始
(～ 1943)
- 1915 ● 医科大学開設
- 1915.12 ● 医科分館 (現・医学分館) 設置
- 1916.6 ● 官制改正により図書館を
附属図書館に改称
- 1919 ● 工学部設置
- 1922 ● 法文学部設置
- 1925. 秋 ● 図書館で最初の展示会を
開催
- 1925.12 ● 図書館閲覧室・事務室
(現・史料館) 竣工
- 1927.3 ● 医科分館閲覧室・事務室
竣工
- 1941.7 ● 狩野文庫の『類聚国史』
『史記』が国宝指定
- 1943 ● 漱石文庫を受入開始
(～ 1944)
- 1947 ● 農学部設置
- 1947.9 ● 農学部図書室設置
- 1947.10 ● 東北大学に改称
- 1949 ● 教育学部設置
- 1949.5 ● 学制改革により新制・東
北大学に改組

図書館創設当初の蔵書形成 ～洋行買付～

1911年の理科大学開設の翌年、本学に7万冊余りの和漢書の狩野文庫(第一次分)が受け入れられました。一方で洋書は年に数百冊ほどしか購入されておらず、この状況を大きく変えたのが1922年の法文学部創設でした。

20数名の法文学部初代教授たちは前年から続々と在外研究に出席し、とくに当時ドイツの賠償金問題に端を発するマルク暴落とハイパーインフレーション、そして日本円の高騰を背景として、わずか数年で5万冊に及ぶ洋書の買付けに成功しました。新学部設置のため図書費が大幅に増額され、教授一人あたり2万円の使用が許されたことも追い風となりました。2万円は当時の大学教授の年俸6,700円の約3倍もの金額でした。

購入を競った諸外国の妨害に対抗して陸揚げされた洋書は、旧蔵者ヴェント、ゼッケル、チーテルマン、シュタイン、シュマルゾー、ミュンスターベルク、ヴォルチェンドルフの名を付けて、現在では個人文庫と呼ばれる「特殊文庫」として図書館に受け入れられました。インフレーションの早期収束から購入には莫大な赤字が残りましたが、第4代総長の小川正孝に請われて第2代図書館長となった武内義雄(中国哲学)らの尽力により見事に整理されました。

(総合学術博物館助教 小川知幸)



▲ドイツのハイパーインフレーション(1923年)
(Bundesarchiv, Bild 183-R1215-506 / CC-BY-SA 3.0, CC BY-SA 3.0 DE, via Wikimedia Commons)



▲図書館書庫に取められたゼッケル文庫

図書館創設当初の蔵書形成 ～狩野文庫～

本学の代表的なコレクションの一つである狩野文庫は、秋田県大館出身の文学博士である狩野亨吉の旧蔵書です。購入の際、狩野から出された条件は、蔵書を一括かつ東北大学に永久に保管することでした。狩野文庫は、個人が収集した蔵書等を一括して保管し利用に供する「特殊文庫」の先例となり、数々の文庫が形成されたことが、1943年に夏目漱石の旧蔵書を本学で受け入れることができた大きな要因にもなりました。

なお、和漢書の古典が中心である狩野文庫の購入を推し進めたのは、狩野の友人でもあった初代総長の澤柳政太郎でした。当時、人文系学部はありませんでしたが、「総合大学」構想を持っていた澤柳の先見の明と尽力により、狩野文庫は図書館創設期における蔵書の礎となったのです。のちに『類聚国史』と『史記』の2点が国宝に指定されています。



▲国宝『史記 孝文本紀 第十』延久5(1073)年

※年表の凡例

- …大学全体の出来事
- …図書館や分館の出来事
- …上記のうち、資料やサービスに関する出来事

写真で振り返る図書館の歴史①



▲左手には大きな地球儀が見える、理科大学地質図書室(1913年頃)。これらの各学科図書室がのちの北青葉山分館の基礎となります。



▲医科分館(1930～40年代)。白衣姿の利用者や、左奥の棚に梯子がかかっているのが見えます。



▲図書館閲覧室(1930～40年代)。現在は登録有形文化財となっており、閲覧室は史料館の資料展示室として使用されています。

今年是本館竣工50年！

- 1954.11 ● 医科分館を附属図書館分館医学図書館に改称
- 1957.4 ● 富沢分校分館設置
● 分館医学図書館を医学部分館(医学図書館)に改称
- 1958.9 ● 富沢分校分館が移転し、川内分校分館に改称
- 1963.7 ● 記念資料室(現・史料館)設置
- 1964.4 ● 川内分校分館を教養部分館に改称
- 1965.7 ● 本館、国連寄託図書館に指定
- 1970.1 ● 本館、OECD 寄託図書館に指定
- 1972.4 ● 教養部分館廃止、本館に統合
● 医学部分館を医学分館に改称
- 1972.10 ● 本館が川内地区に移転、新館竣工
- 1973.11 ● 本館全面開館
- 1974.4 ● 農学部分館(現・農学分館)設置
- 1974.9 ● 医学分館、旧第二内科研究棟跡に移転
- 1978.4 ● 工学分館設置
● 農学部分館を農学分館に改称
● 医学分館、外国雑誌センター館に指定
- 1979.4 ● 農学分館竣工
- 1980.11 ● 工学分館竣工
- 1982.4 ● 北青葉山分館設置
- 1983.9 ● 本館、EC 資料センター(現・EUi)に指定
- 1984.1 ● 医学分館新館竣工
- 1985.3 ● 北青葉山分館竣工
- 1987.4 ● 蔵書検索システムが稼働
- 1989.11 ● 本館2号館竣工
- 1990.5 ● 本館2号館開館

1972年に附属図書館本館に教養部分館が統合され、本館は片平キャンパスから川内キャンパスへ移転新築されました。閲覧席も大幅に増え、学生の貸出冊数・期間も拡大されました。図書館建築の第一人者である鬼頭梓氏により設計された本館1号館の建物は、今年で竣工50周年を迎えます。広々とした開放的な空間は現在も古びることなく、多くの利用者に活用されています。

ところで、蔵書検索(OPAC)や本館の書庫で「旧片平」「旧教養」という言葉を見かけたことはありませんか？ これらは、川内キャンパスに本館が移転新築される前にそれぞれの図書館で使われていた図書指しであり、当時の分類法のまま書庫に納められています。現在とは異なる本の背ラベルからも、図書館の歴史を垣間見ることができます。

| 【旧片平】 | 【旧教養】 | 【現在】 |
|---|---|---|
| VI、B 3-4 サ2 | 704 15 | GC 24 0125 |
| 片平キャンパス時代の 本館の蔵書(図書館創立～ 1972年)。本学独自の 分類表による。 | 川内キャンパスにあっ た教養部分館の蔵書。 日本十進分類法による。 | 移転新築後の蔵書 (1973年～現在)。国 立国会図書館分類表 による。 |



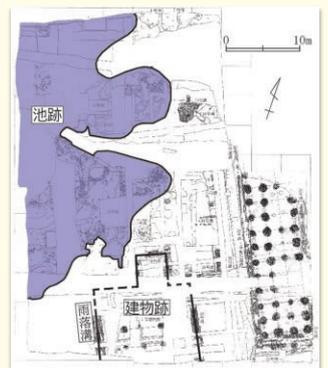
▲ 背ラベルに書かれた請求記号の違い

▲ 本館竣工当時の1Fメインフロア

図書館の下に埋もれていた歴史 —江戸時代の頃の川内南地区—

伊達政宗による仙台城造営の頃、川内南地区には政宗の四男である伊達宗泰の屋敷があったとの伝承があります。その後の1620年には、この屋敷地北側に、政宗の長女五郎八(いろは)姫の居館である「西屋敷」が造られました。この場所は、現在の附属図書館の位置にあたります。

埋蔵文化財調査室では、附属図書館2号館を新営する際に発掘調査を実施し、西屋敷の一部と考えられる建物跡や、大小の不定形の池跡を確認しました。これらの池は、州浜(石等を用いて砂浜を表したもの)等を配する庭園の一部であることが判明しました(図1)。池の南側には、雨落溝が



▲ 図1 西屋敷に伴う庭園



「元禄四年名取柳生村
十一月三日 勘九郎 〇

▲ 図2 荷札木簡(長さ6.6cm)

囲繞する建物があり、この建物の縁台が付くことも想定できることから、この場所は私的な供応・遊興の空間であったと考えられます。その後、この場所は仙台城二の丸等になりますが、その頃の陶磁器・瓦のほか、木簡等の有機質の遺物も多数出土しています(図2)。

明治維新後には旧陸軍、第二次大戦後には米軍が駐屯地として利用していましたが、1957年に米軍からの返還を受け、二の丸地区のほとんどは本学が使用することになりました。今も川内地区の地下には、このような歴史が埋もれています。

これらの詳細は、当室のホームページ(<http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>)から、調査報告書やリーフレット等を御覧ください。

(埋蔵文化財調査室特任准教授 菅野智則)



▲ 埋蔵文化財調査室ホームページ

写真で振り返る図書館の歴史②

現在、本学には医学、北青葉山、工学、農学の4つの分館があります。各キャンパスに分野別の専門図書館を置くという構想のもと、1970～80年代に設置が進められ、新しい建物が整備されていきました。当時の様子を収めた4枚の写真、みなさんはどの分館がわかりますか？(答えは4ページの下にあります)



① 1Fカウンター付近



② 寄贈された彫刻の除幕式



③ 竣工当時の外観



④ 研究者閲覧室

学習支援活動の高まり

- 1995.2 ● 工学分館閲覧室・書庫を増築
- 1995.9 ● 図書館ホームページ運用開始
- 1996.4 ● データベースサービスを全学的に開始
- 1997.2 ● 電子ジャーナルサービス試行
- 1997.12 ● 図書館 HP 上に「貴重書展示室」を設け、貴重書の画像を公開
- 1998～ ● 本館で所蔵資料を紹介する常設展や企画展を定期的に開催
- 2000.2 ● 狩野文庫画像データベース公開
- 2000.4 ● 漱石自筆資料・漱石文庫目録および狩野文庫和書目録をインターネットで公開
- 2000.11 ● 史料館設置
:(記念資料室を改組)
- 2003.3 ● 『東北大学生のための情報探査の基礎知識(基本編)』刊行
- 2004.3 ● 医学分館書庫・学生閲覧室増築
- 2004.4 ● 国立大学法人東北大学発足
- 2004.10 ● 全学教育科目「大学生のための情報検索術」開講
- 2005.12 ● 『東北大学生のための情報探査の基礎知識(自然科学編)』刊行
- 2007.3 ● 東北大学機関リポジトリ「TOUR」正式公開
● 『東北大学生のための情報探査の基礎知識(人文社会科学編)』刊行
● 工学分館で電子ブックを購入

2000年代に入り、当館の学習支援活動は大きく進展しました。

図書館職員が中心となって編集した『東北大学生のための情報探査の基礎知識』は、2003年3月の基本編を皮切りに4種の姉妹編を刊行し(写真)、翌2004年度からは、この基礎知識シリーズをテキストとした全学教育科目「大学生のための情報検索術」が開講しました。

この科目は情報探査方法の習得のみに留まらず、レポート作成までも視野に入れた点が大きな特徴でした。その後、時代とともに科目名や講義内容のアップデートを重ね、2020年度には、長年の功績が認められ、東北大学全学教育貢献賞を受賞しています。

また、各館ではゼミや授業の一コマを利用して行う「オーダーメイド講習会」にも力を入れてきました。本館では、学部生が書庫を利用するための「書庫ガイダンス」や、古典資料の見学など、様々なメニューから選択する形式で実施し、好評を得ています。



▲ 2012年度の授業の様子(第2 Semester-5限に開講)



▲ 『東北大学生のための情報探査の基礎知識』(2011年まで使用)

最初に登録された図書館の蔵書

現在は410万冊以上の蔵書を有する当館ですが、東北帝国大学図書館の蔵書として最初に登録されたのは、1854年にドイツで刊行された物理学の雑誌でした。

当時の図書原簿(登録した資料の情報を記載する帳簿)には、「Annalen der Physik.」、日付は「44年7月4日」とあります。ライブツィヒの古書店・出版社グスタフ・フォックからの購入でした。また、保管者欄に「物」というハンコが押されていることから、理科大学時代の物理図書室に配架されていたと推定されます。



▲ 1911年に登録された蔵書の登録番号印。現在では、バーコードラベルにあたるものです。番号の下にある「甲」は購入を意味し、寄贈された図書の場合は「乙」になります。



▲ 『Annalen der Physik. 2. Folge (物理学年報 第2シリーズ)』の標題紙。現在は北青葉山分館で所蔵しており、電子ジャーナルでの閲覧も可能となっています。

写真で振り返る図書館の歴史③



▲ 1936年10月に附属図書館閲覧室(現在の史料館)で開催された展示の様子です。理科大学開設を起点として、東北帝国大学創立25周年を迎え、貴重書約370点が一般公開されました。



▲ 本学の蔵書であることを示すための印章。押す場所も形状も現在とは異なりますが、図書登録業務の必需品です。今年は、各時代に各館で使われてきた「蔵書印」に焦点をあてた企画展を行います。詳しくはp.6へ!



▲ 1988年の本館1階メインフロアの様子です。ずらりと木製の目録カードボックスが並んでいます。当時はカード目録や蔵書目録をひいて必要な資料を探していました。

変わる学習スタイルと図書館サービス

- 2007.6 ● 東北大学創立 100周年
- 2007.9 ● 江戸東京博物館や仙台市博物館で東北大学創立 100周年記念展示が開催される
- ~2007.11 ● 「東北大学の至宝」展
・「文豪・夏目漱石」展
- 2008.3 ● 仙台文学館で東北大学創立 100周年記念特別展「学都に息づく夏目漱石の精神」が開催される
- 2008.9 ● 附属図書館イメージキャラクター誕生 (のちに「はぎのすけ」と命名)
- 2010.4 ● 東北大学デジタルコレクション稼働
- 2011.3 ● 東日本大震災により被災附属図書館公式Twitterアカウント正式運用開始
- 2011.6 ● 附属図書館創立 100周年
- 2012.11 ● 本館にラーニング・コモンズ開設、留学生コンシェルジュサービス開始
- 2014.10 ● 本館リニューアル開館
- 2015.12 ● 医学分館創立 100周年
- 2016.6 ● 附属図書館公式Facebook開設 (~ 2019.3)
- 2017.4 ● 農学分館、雨宮キャンパスから青葉山コモンズ内へ移転開館
- 2018.11 ● 附属図書館公式Instagram開設
- 2019.3 ● 東北大学特定基金「図書館の未来基金」開設
- 2019.11 ● 「漱石の肉筆を後世へ！ 漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」実施 (~ 2020.12)
- 2020.9 ● 狩野文庫の古典籍をデジタル化、国文学研究資料館の「新日本古典籍総合データベース」で公開
- 2020.12 ● 附属図書館公式YouTubeチャンネル開設
- 2021.5 ● 医学分館リニューアル開館
- 2022.6 ● 東北大学創立 115周年、総合大学 100周年
- 附属図書館創立 111周年
- 2023.8 ● 北青葉山分館リニューアル開館予定

本館には2012年から2014年にかけてラーニングコモンズが開設されました。1階メインフロアのフレキシブルワークエリアやPCエリア、2階のグローバル学習室は、学生の自主的な学びや交流のためのスペースとして活用されています。

その後は分館にも利用者ニーズに対応した学習スペースが新設されるなどして、アクティブラーニングをはじめとする多様化する学習スタイルを支援する環境が整っていきました。

本館では2012年11月に、留学生の図書館利用を支援する留学生コンシェルジュサービスがスタートしました。現在は、コンシェルジュデスクでの相談対応の他、多言語による図書館ガイダンス、国際交流イベントなどを行っています。



▲ 本館1階メインフロア (p.4「写真で振り返る図書館の歴史③」から約30年後です)



▲ 青葉山コモンズのラーニングコモンズ



▲ 現在活躍している留学生コンシェルジュのみなさん

開かれた「知」を次世代へ ~デジタルアーカイブの取り組み~

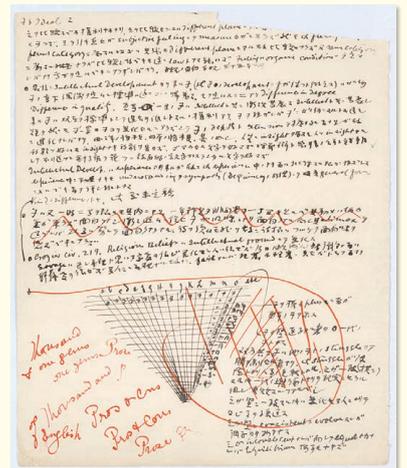
本学では、狩野文庫や漱石文庫をはじめとする貴重なコレクションについて、マイクロフィルム作成やデジタル化とオンライン公開を行ってきました。しかしながら、これらの取り組みを始めたのは今から20年以上前のこと。原資料の保全と活用の両立を図るといった大きな役割を果たしてきましたが、モノクロフィルムや当時の技術で撮影した画像の解像度では限界があることは否めず、より活用しやすい形態・方法での提供が求められるようになりました。

そこで、近年は、最新の技術による高精細画像の撮影やマイクロフィルムからのデジタル化を行っています。2019年11月から2020年12月にかけて実施した「漱石の肉筆を後世へ！ 漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」では、クラウドファンディング事業で全国から寄付をつくり、自筆資料等792点と蔵書1点の再デジタル化を行いました。再デジタル化した画像資料は、様々な加工・分析が行えるという、研究素材として新たな強みを持つものです。

情報環境の高度化にともない、デジタル化の目的も変化しています。以前は、大学資源の一般公開を主目的に、貴重図書の一部の頁や絵図、絵葉書、和算関係資料を公開してきました。近年は研究支援を目的に貴重図書以外の数十万冊にのぼる古典資料にも対象を広げ、全頁をくまなくデジタル化するものとなっています。本学でも年間5千タイトル (45万画像) を世に送り出しており、日本固有の文化資源・歴史資源を国内外どこにいても研究できる環境の整備と拡大を目指しています。



▲ 2021年には、デジタル化した狩野文庫の中から、彩り豊かな画像を活用したオンライン展示を開催しました。



▲ 「Fト Ideal. [FトF+f] (請求記号 4-3) 再デジタル化した、漱石の「文学論」にみられる中心概念「F+f」に関連したメモ。このほかにも、高精細な画像を「東北大学デジタルコレクション」で公開しています。

— 感謝の想いを込めて —

附属図書館には、今日も多くの利用者の皆さんが訪れています。2020年からのコロナ禍や、2021年2月と2022年3月に立て続けに発生した大きな地震など、様々な出来事乗り越えて無事に111周年を迎えられたのも、皆様の支えがあってこそと感謝しております。

附属図書館が皆さんにとって身近な存在であるように、リアルな空間でもオンラインでも資料へのアクセスや図書館サービスを提供し続けられるよう、これからも努めてまいります。



附属図書館創立111周年記念事業



2022年6月14日、附属図書館は創立111周年を迎えました。6月より記念ロゴの作成や記念動画の公開を始め、秋には、記念展示もいよいよ開催予定です。これらの111周年記念事業を、まとめてご紹介します！

2022年度企画展を開催します！

COVID-19の影響で、会場に会場に来ていただく形での実施を見合わせていた企画展ですが、今年は3年ぶりにリアル展示を行います。感染拡大防止のため小規模なものとなりますが、ぜひご覧ください。さて、今回のテーマは、「蔵書印」です。図書館の本分館に所蔵されている資料に捺されている印—蔵書印をはじめ、管理のための受入印やコレクション印などを紹介します。

●蔵書印ってなんでしょう

蔵書印とは「蔵書に押し、その所有を表わす印章」のことです。(日本国語大辞典, Japan Knowledge, <https://japanknowledge.com>, (参照 2022-08-22))

皆さんは、何か蔵書印を見たことがありますか？

普段の生活ではあまり目にすることはないかもしれませんが。

いやいや、でも、図書館を使ったことがある人は、きっと目にしてはいるはずですよ。表紙の裏とか、ページをめくったところなどに、何か印が捺されていたような記憶はありませんか？赤、藍、黒、四角型、丸型……そうそう、だんだん目の裏に画像が浮かんできたようですね。

●図書館の本にはかならず印がある

蔵書印は“所有”を表すものなので、管理面から、図書館の本には必ず「蔵書印」(の仲間も含む)が押印・貼付されています。

印文には所有者名、つまり、東北大学附属図書館という機関名が、基本的には記されています。

ところで、みなさんもご存じの通り、本学は、1907年に設立されて以来、医学専門学校の包摂をはじめとして、いくつかの学校の包摂と、大学内の何回もの組織編成の変更を経て今に至っています。

図書館の蔵書印も、そういった変遷に従って、変更されてきました。

代表的なものは、昭和22(1947)年の東北帝国大学から東北大学への改称で、蔵書印も変更されました。

2022年度企画展

本をめくる, 印をめぐる

～東北大学の蔵書印から～

- ◆会期：2022年10月1日(土)～10月30日(日)
- ◆場所：東北大学附属図書館(本館)エントランス展示コーナー
- ◆時間：平日8時～22時、土日10時～22時
- ◆ゲーム&クイズ(オンライン)
- ゲーム：蔵書印めぐり(スマホであそぶ蔵書印の神経衰弱)
- クイズ：蔵書印めぐり

★全問正解者には先着順に記念品プレゼント

●オンライン版はこちらから→



記念ロゴを作成しました！



2023年3月まで、附属図書館の各種広報に活用するため、館内公募により決定した記念ロゴ。デザインされた図書館職員の菅原真紀さんに、ロゴに込めた思いを伺いました。

「今回作成したロゴでは、本のノンブルで『111』周年を示しました。図書館の

創立記念日には、実際に図書館で所蔵している本の『111』ページ目を集めた動画も公開しています。

大学の図書館が所蔵する資料は、電子ブックや電子ジャーナルなど、現物を伴わないものも多くあります。かくいう私も、自分で購入する本は電子書籍を選ぶことが多くなりましたが、紙の本のページをめくるわくわく感はまだまだ好きな感覚です。図書館のこれからの歴史も、本のページをめくるように、わくわくするものであることを願っています！

記念動画を公開しました！

ささやかながら111周年分の感謝を込めて、現役図書館職員による『祝ってみた！動画』を作成しました。動画は1分ほどで東北大学附属図書館のYouTube公式チャンネルでご覧いただけます。6月14日の公開以来、再生回数は500回を超え大変好評です。今後も皆さまのご期待やご要望に添えるよう尽力して参りますので、引き続きよろしく申し上げます。また、Instagram(tohoku_univ_lib)では111周年記念ロゴをイメージした動画も公開しています。様々な本の111ページが登場しますので、こちらも併せてご覧ください。なお、これらの内容はTwitter(@hagi_no_suke)でも発信中です。こちらもぜひフォローをお願いします。



YouTubeはこちら▶



下の写真は、左側が、「東北帝国大学」時代の蔵書印で、右側が「東北大学」の蔵書印です。いずれも大きさは7.5cm×7.5cmです。一万円札を半分に折った程度の大きさで存在感があります。



① 東大印



② 東北大学印



⑥ 仙臺高等工業学校印



⑦ 宮城病室印

●本をめくり、印をめぐり、歴史をたどる

本学は、設立当初は数学・物理・化学・地質の四つの学科を備えた理科大学だったので、最も古い学部は理学部ということになります。理学部・薬学部を担当する北青葉山分館の蔵書の中には、大学初期の学科(当時は教室と言っていました)の蔵書印を持つ本もあります。(図③・④)

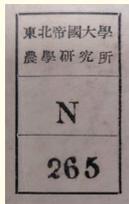
図⑤は、現在の農学部の前身である、昭和14(1939)年に設置された農学研究所のものです。この研究所は農学部創設を目標に作られましたが、農学部設置の昭和22(1947)年以降も、昭和63(1988)年に遺伝生態研究センターに転換されるまで存続しました。そして遺伝生態研究センターは、平成13(2001)年に設置された生命科学研究科に統合という経緯をたどりました。



③ 理学部印



④ 数学教室印



⑤ 農学研究所の名前があるラベル

次に示す印は、工学部、医学部に包摂された機関のものです。「あれ? 今でもあるのでは?」と思うような名称ですね。(図⑥・⑦)

このように、図書館の本を開いてみると様々な蔵書印やラベルがあり、それらを見ていくと大学の歴史をたどることができます。

ここで紹介したのは、ほんの一部です。当館が誇るコレクションである狩野文庫には、旧蔵者が狩野亨吉博士であることがわかる印が捺されていたり、はたまた学科の所蔵資料には六角形や菱形の印があったり、また、外国人学者の旧蔵書コレクションには印ではなく「蔵書票」が貼付されていたりと、様々な「蔵書印」があります。今回の展示ではこれらの「ほっ!」と思うような印を一挙に紹介します。

●蔵書印の深い世界

今回の展示は当館の蔵書印を紹介しながら本学の歴史をたどるものです。

蔵書印は、所蔵する個人や団体等を示すものとして古くから使われてきました。そのため、蔵書印をたどることは、書物と知識の伝播の歴史や、書物の価値を知る手がかりとして研究に使われてきました。また、そのデザインは先人の書物への思いや思想を想起させるようなものでもあり、美的側面でも注目されてきました。特にヨーロッパの書物に貼付されている蔵書票は凝ったものが多く、見るだけでも面白いものがたくさんあります。その中からもいくつか展示します。

この展示を機会に、先人の足跡をたどり、現在に至る時間に思いを馳せることができる蔵書印・蔵書票の世界へあなたもどうぞ!

今回の展示のオンライン版にはクイズがあります。正解者には記念品🎁プレゼント! ぜひアクセスしてください。(左のページにQRコード掲載)

📖 ビブリオバトルを開催します!

◆ 全国大学ビブリオバトル2022 地区予選

3年ぶりに対面で開催される全国大学ビブリオバトルの地区予選を10月28日(金)16:50より、東北大学附属図書館(本館)を会場に行います。オーディエンス(観覧者)を募集しています。オーディエンスの方は、パトラーの発表を聞いて「読みたいと思った本」に投票し、最多得票の本がチャンプ本(優勝)となります。パトラーの発表に読書欲が刺激されワクワクすること間違いなしです。ぜひご観覧ください。

申込締切: 2022年10月14日(金) ※定員に達し次第締め切り

申込方法: QRコードから

申込条件: どなたでも

会場観覧30名/オンライン観覧500名

実施詳細



申込フォーム



◆ 全国高等学校ビブリオバトル宮城県予選

昨年に引き続き、全国高等学校ビブリオバトルの宮城県予選を、12月4日(日)、東北大学を会場に行います。

詳細は決まり次第、図書館のウェブサイトでご告知し、オーディエンスを募集します。ぜひ、ご観覧ください。

知的書評合戦 ビブリオバトル

TALK
SESSION

学生×若手の図書館職員による座談会「図書館の今とこれから」

2022年8月24日、学生と若手の図書館職員による座談会を開催し、図書館の今と未来について考えました。学生のお二人は、2022年3月16日に発生した福島県沖地震により被害を受けた附属図書館の復旧作業に、ボランティアとして協力して下さったSCRUMという団体に所属されています。ここでは内容を抜粋して紹介しますが、図書館ウェブサイトでフルバージョンを公開しています。

加藤 それでは早速学生のお二人に、自己紹介も兼ねて、図書館でボランティアをやりうと思ったきっかけについて伺いたと思います。

高橋 端的に言うと、いつもお世話になってるから恩返してというのが本当に素直な気持ちです。ボランティアは実際やってみたいと思ってたんですけど、僕の代はコロナ禍で団体としてはなかなか動けなくて、だからSCRUMで初めて団体としてボランティアできる機会でもあったので、やってみたいなって。特に図書館はいつもお世話になっていて、頻繁に利用してるので、自分たちで何かできないかなと思ったし、本当にあの時の地震は揺れが大きくて、これ結構やばいんだなって、なんとか力になれればなって思っていました。

井指 僕も大体同じような理由で、図書館は常に利用していましたし、何か大変なことが起きてるっていうのは大隅館長のSNSを拝見して知っていたので、何か動けなくなっているのは考えて、ちょっと別の方とお話している時に話題になったので、春休みだしせっかくなら、ちょっとやってみようかと始めました。

加藤 その節は本当に助かりました。

田名部 SCRUMってどういう団体なのか、もうちょっと詳しく聞かせていただけますか？

井指 SCRUMは、大学の組織である課外・ボランティア活動支援センターの支援スタッフという枠組みでありつつ、基本は大学の他のサークルと同じようなことをやっています。東日本大震災をきっかけに設立された団体なので、具体的な活動内容は、例えば緊急災害支援とか、震災の伝承活動みたいなところが一番わかりやすいかなと。そこから派生して、防災についての情報発信とか、東北の魅力発信とか、ボランティア学生と現地とを結びつけるようなことを主にやっています。

図書館がある日常

加藤 普段はどういうときに図書館に来るんですか？

高橋 主に二つかな。レポートなどの参考資



▲前列左よりSCRUMの井指晴貴さん(農学部2年)、高橋真二郎さん(経済学部3年)、後列左より田名部晃平(農学分館)、阿部立夏子(工学分館)、加藤舞(本館)

料のためというのが一つと、もう一つはオンライン授業を受けるために図書館を利用しています。

井指 僕はテスト勉強が多いですね。基本、家では勉強しないし課題もやらないタイプの人間なので、そのスイッチを入れ替えるっていう意味での図書館かなと。もちろん、参考資料としてレポートに図書館の本を使ったりすることもありますけど。青葉山新キャンパスにあるラーニングcommonsでホワイトボードを使ってミーティングをやることもありますね。せっかくだと対面で集まったのにPCカタカタだけだと、PCと話してるみたいな感覚になるんですけど、ホワイトボードがあるとちょっと前を向けるので結構使います。

加藤 皆さんご自身の目的に合わせていろいろな使い方をしているんですね。自分なりの図書館活用法はありますか？

井指 僕は、本館の本棚の横に展示してある本は結構手に取るんです。大学に入って専門分野が絞り込まれる中で、他の分野もちょっとかじったりできるのが、あれのいいところだと思って。基礎ゼミに近いようなニュアンスを持っていると思うので、昨日はあの本、今日はこの本みたいな感じで触れてみるのも面白いのかなって。

加藤 書架横の展示本は私もよく選んで置いているので、すごく嬉しいです。私は、本館の場合、今話に出た書架横の展示だけでなく、他にもメインフロアとかいろんな場所でミ

ニ展示を行ってるので、新しい本と出会う機会、本との接点が多いのがいいところだなと。

田名部 農学分館は、さっき話に出たラーニングcommons、あそこは公園だと思って。みんなが簡単にコミュニケーションを取れる場所、それぞれが何やってもいい場所があるのはいいことだなと。そのラーニングcommonsが結構学生に使われてるって聞けてすごく嬉しい。

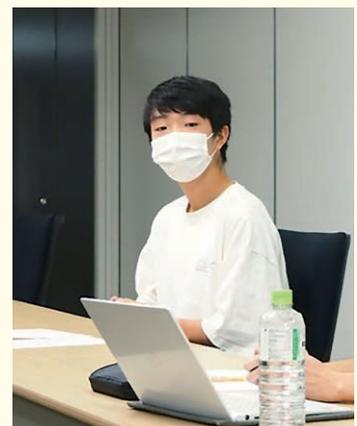
阿部 工学分館は、オンライン授業向けのスペースが多くて、Language Studioっていう施設には19のブースがあるんですね。思い立った時にぱっと自分専用のパーソナルスペースが確保できるっていうのが、魅力の一つかなと。あとウェブサイトが結

構充実して、工学部生向けに専攻別におすすめのデータベースを紹介してるページがあったり、チャットで質問ができるレファレンス機能があたりるので、知っていただけたら嬉しい。

未来の図書館について

加藤 未来の話になりますが、図書館にあって嬉しい施設やサービスはありますか？

井指 僕はよくYouTubeで見る書評動画とかがいいかな。本が分厚ければ分厚いほど、手に取るハードルは高い気がしますし、どういふ本なのかすぐにはわからない。タイトルしかわからない状況で、手に取るかっていうとちょっと。それが動画なりラジオなりにしてもらえると見たり聞いたりするかなって。



田名部 図書館でYouTubeのチャンネルを持つてるから、Vtuber作って紹介者を変えつつやったら面白いかもしれない。

高橋 確かに書評っていうのはいいな。あと、図書館の本って、本にメモを取るとか線を引くとかできないですよね。だから、何かしら書き残すツールが欲しいな。それがシェアできたりしたら、ああその本でこういうこともわかるんだみたいな、簡単なタグみたいなものになるかなって。

阿部 コロナ禍では難しいかもしれないけど、アウトプットっていう意味ではラーニングコモンズに集まって、自分の好きな本について語るとか、1冊をみんなで読み解いてみるとか、そういうのをもっとカジュアルな形で細々とでもやれる機会があれば楽しそうですね。

井指 僕らがもっと図書館を使いたくなる仕組みを考えると、図書館って喋らないのが当たり前だけど、やっぱりそれだとレポートとか根詰めすぎることもあると思うんで、農学分館みたいに話せる空間があるといいかな。結構広いスペースが必要なので、大変かもしれないですけど。でも本がデジタル化されるにつれて、図書館はそういうある種コミュニケーションの場になるといいのかなと思ったりしますね。

田名部 滞在型・体験型っていうのが最近の図書館のトレンドですよ。昔はとにかく情報を貸し出す場所だったけど、今は本人に体験させようっていう場所にシフトしてきて、結構面白い動きだな。今だに大きな転換点にいるんじゃないかって思って。最終的にどこに行くんだろうって考えたら、VRとかメタバースとかが今増えているので、今度はその体験、一度限りの体験みたいなのを保存する場所になるんじゃないかって。大学としてこういうことをやるのかわかりませんが、そういう進化をしていったら、ちょっと面白いなって。

高橋 あとは何か東北について発信できる機会や、東北のことがわかるような体験ができる場所になったら、面白いかな。

田名部 話を聞いていて、図書館で出会いとか刺激を受けるとか、乱数としての図書館になっていくといいのかなって思いました。書架の横に展示してある本、あれも乱数ですよ。

井指 確かに、その乱数って考え方は、僕もすごく感じますね。専門性を突き詰めていっちゃうのが大学のいいところでもあり悪いところでもあるかなと思うので、例えば普段自分が研究室で何かやってるだけでは得られないような情報がやって来ると、それに対しての興味が湧いたり、巡り巡って研究に繋がることもあるだろうし、その先には実用化にも発展するのかなって思いますね。

阿部 図書館っていう場があって、そこに関

わる人自体が乱数になる。図書館の中にいる人と話すとか話さないとか、そういうことは抜きにしても、図書館に行けば誰かがいて何かをしてるっていうのは、結構大事な要素ではないかと思っていて。「ラーニングコモンズは公園」って話が出ましたけど、そういう機能があるといいなと。どうせ家の中にも情報が手に入る時代なんだったら、人がいるところで何ができていうのは、大事になるんじゃないかな。

目指す図書館像

加藤 「〇〇な図書館」みたいな感じで、一言で表現するとどうなりますか？

田名部 私はさっき言った「乱数としての図書館」ですかね。出会いとか刺激を受けることで、自分の頭の外に出られる場所に図書館がなっていくと、面白いかな。

井指 僕は「コミュニケーションの場」であってほしい。体験の共有もそうですし、それぞれの本についての思いの共有もそうですし、それを相互に話せる場というか、話さなくてもお互い干渉し合う場であってほしいなと思いますね。

加藤 私は「身近な図書館」であってほしい。図書館をよく利用されている方にとってはもっと身近に、そうじゃない図書館を自分とは遠い存在だと感じている人にも、身近なものになってほしいな、そして図書館を使い倒してほしいなと思ってます。

田名部 言ってみればサブスクですからね、大学図書館って。使わないもったいない。

高橋 僕は、高校時代は全然本を読まない人間だったんですが、実は大学を選ぶときに自分の選択の中の軸としてこの図書館があって。高校1年生の時にこの図書館を見学して、めちゃくちゃ大きくなってというのが第一印象だったのと、蔵書の数が日本有数ってこともあって、こんな場所で勉強できたら最高だなって。なので巡り巡って、今こういう体験をしているのが嬉しいですね。

加藤 すごく良いエピソードですね。

阿部 目指す図書館でいうと、私は「居場所としての図書館」であってほしい。本を読まなくてもいい、自分にとって大事で過ごしやすい、懐の深い場所であってほしいなって思いますね。図書館にある本だけが大事なじゃなくて、来る人自体がそもそも大事なものというか。

加藤 ただ本を保存しとだけだったら、別に倉庫でもなんでもいいんですよね。

阿部 人間にとって、居心地のいい場所、開かれた場所であってほしいです。

高橋 僕は「人との出会いがある場所」っていう、本にとらわれなくていいのかなって思っ

たのと、あとは皆さんの話を聞いて、「心の拠り所になる場所」にもなったらいいなって。「人との出会い」っていうのは、本って文脈からそう思ったんです。結構本からもらった言葉とか、感動とか経験って多分一生の財産になるって思って。それが図書館っていう場所でも何かしらできたら幸せだなって。もし人と人が連鎖していったら、すごい素敵な場所になるんじゃないかな。図書館もいろんな文脈でここに居たいっていう場所になったら、体験って意味でも素敵だなって。



加藤 皆さん囚らずして同じようなところに行きつきましたね。目指すところとか、こうなってほしいという想いは一緒なんですね。

阿部 ランガナタンの「図書館学の五法則」の中に「いずれの人にもすべて、その人の本を」というのと、対になって「いずれの本にもすべて、その読者を」という言葉があるのが、私はすごく好きで。その時代に書かれて、その時代に読まれなくても、巡り巡って後から読んでくれた人が、おあって思うかもしれないし、読んだことを忘れたとしても、バクフライ効果的にどこかその人の生活の中で変化をきたして、巡り巡って新しい発見になったり、その人の中でちょっと明るいうれしさに繋がったりするってことがあると信じているので、そういう巡り合わせがある場所になっていくといいなと思います。

加藤 本も巡り合わせですし、人と人とも巡り合わせですね。

田名部 人間よりも長く生きますからね、本は。残すって大事だなって思いますね。

加藤 図書館として長年本を残してきた、今、東北大学附属図書館も111周年ですね。これから10年、50年、100年先も、図書館として情報を保存しつつ、人と人とのコミュニケーションの場としても発展していけるといいですね。それでは皆さん、本日はご参加いただき本当にありがとうございました。

附属図書館へのメッセージ



附属図書館創立 111 周年を記念して、図書館へのメッセージを募集しました。
たくさんのメッセージをお寄せいただきありがとうございました。いただいたメッセージの一部をご紹介します。

お祝いメッセージ みなさん、ありがとうございます

111 周年おめでとう☆
(教職員・カバくん)

2015 年から大変お世話になりました!
それぞれの図書館の紹介動画など
を作るのが光栄の至りでした。
(卒業生・Bitti Davide)

毎日フルで利用させてもらってま
す! 従業員さんの対応が丁寧
で居心地が良いです!
(学生・アックス)

いつも勉強に集中できる環境を提供
してくれて感謝しています! これから
もよろしくお祈りします! おめでとうご
ざいます (学生・内定を下さい)

祝!! 111 アニバーサリー!!!
晴読雨読、111 年分の書物全部
読み切って俺が最強になる!
(学生・ゆう)

2 週間に 1 度図書館で 3 冊借りることを自分のルーティンにしていま
す。1 冊は以前から読みたいと思っていた小説、他 2 冊は図書館
の係員の方がそれぞれの本棚からピックアップした書籍。ピックア
ップされた書籍を読むことは、自分の研究分野に関わらず、様々な
情報に触れるとてもいい機会になっています。学問へのモチベー
ションも高まります。111 周年、おめでとうございます。これからも多
くの人が利用出来る開かれた場であると共に、学びの源泉として
の魅力を持ち続ける図書館であって欲しいと思います。
(学生・猫踏んじゃった犬)

111 周年おめでとうござい
ます! これまで収集した貴
重な資料が、今後も大切
に保管され、多くの方に
利用されますように!
(教職員・ぼん)

Happy 111th
Anniversary to our
favorite library! Some of
the best moments of my
student life happened in
its walls and I am so
thankful! 
(学生・Kiya Kaur)



111 周年おめでとうございます!
これからも教育・研究をサポート
し続けて下さい!
(教職員)

111 周年おめでとうございます!
いつも快適に使わせていただいでい
ます。これからもよろしくお祈りしま
す。
(学生・ピロウス)

Congratulations!! 
(卒業生・Nayak Sandeep kumar)

111 周年おめでとうございます。
これから先もずっと利用してい
きたいです
(教職員)

いつもお世話になっています😊
これからも大事に使わせていた
だきます♪
(学生・馬鈴薯ジャンパー)

次の 111 年どんな図
書館になるのでしょ
う? 222 の年まで、ま
すますの発展をお祈
りします!
(教職員・gonbe)

111 周年おめでとうございます! ついこないだ 100 周年
を迎えてお祝したばかりだと思っていたのですが、月
日が経つのは本当に早く感じられます。地下書庫に入る
と、吟味され集められた古の本の素晴らしさに圧倒され
ます。これからもずっと大切に守り続けてほしいです。
(教職員・めろん)

Congratulations on 111th
anniversary! I wish you all
the best of success!
(教職員・Stray Sheep)

111 周年おめでとうございます😊
(教職員・OPPO)

ガンバ東北!

(卒業生・2018 年卒業生)

Happy 111th anniversary
(その他・Hangnt26)

Thank you to all of the
libraries for always
being a welcoming place
for research, and the
pursuit of knowledge.
(学生・Jonathan)

いつも利用させてもらってます。勉強
に集中したい時にもってこの場所
です。これからも利用させていただ
きます。
(学生・わたし)



東北大学附属図書館創立 111 周年、
おめでとうございます(°▽°)
これからも、たくさん利用させていた
だきます(^^) (学生・まうまう)

111 周年おめでとうございます!
いつもお世話になってます。
これからもよろしくお祈りします!
(学生・ハマ)

111 周年おめでとうございます!
地震のたびに見事な復旧を遂
げられることに感動します!
(教職員)

祝え! 数多くの学生を支援してき
た東北大学附属図書館、111 周
年の歴史的瞬間である!
(学生・Maguro)

附属図書館のここが好き!

お気に入りの場所や雰囲気、サービスをご紹介します

開放的な窓ガラスから見える木々の緑色が堪らなく好きでよく来ます、これからも宜しくお願いします。

(学生・だんぼー君)

圧倒的収蔵量。

(学生・図書館にいくすか)

Really like the quiet environment of our library! Hope it gets better and better!

(学生・Fria)

蔵書がいつもきれいに整頓されていて、所望の書籍が大変探し易いところ

(教職員・YT)

「歴史」と「知」を感じ。佇んでいるだけで体内に入り込んでくるような雰囲気が好きです。

(教職員・yumizu)

古い資料がたくさんあって宝探しのような気持ちになれます!

(学生・ほいほい)

朝に机を一つ一つ拭いてくださる職員さんの姿をみて、今日も頑張ろうと思えます!

(学生・こぶ)

書庫の匂いが好きです!!

(教職員・mono)

いつも快適な空間にしていいただきありがとうございます!

(学生・図書館星人)

静かでとても綺麗なところが最高です! 初めて利用した時には感動するほどでした!

(学生・はなみず)

東北大学附属図書館創立111周年、お祝い申し上げます! 卒業後も東北大学及び附属図書館の益々のご発展を祈念しております。

(卒業生・楚心)

大学の力は図書館で分かります。幅広い蔵書と知識豊富な司書、東北大学は最高です!

(教職員・ののなの父)



グローバル学習室が大好きです。面白い本がいっぱいありますし、ここでは友達とおしゃべりすることもできます。快適な場所です!

(学生・Luc Luc)

欲しい情報はここに来れば大抵ある。この図書館は僕にとっての宝箱です。

(学生)

日本、いや、世界に誇るコレクションたる狩野文庫の存在を、卒業してから知りました。あーあ。

(卒業生・勉強は家でする派)

いろいろな閲覧場所、学習場所があるところ! 気分によっても移動できるし、楽しみながら勉強できます

(学生・からかさのこ)

図書館に来ると「ああ自分もちゃんと東北大生なのだなあ」と実感することができます!

(学生・kiri)

たくさん本がある所と、自習スペースの居心地がいい所が好きです!

(学生・Renoa)

市の図書館にはない、古い文書が借りれる!

(教職員・ぴりか)

本館の地下書庫が好きです。訪れる度、探検している気分になって胸が躍りました。

(卒業生・ざっとな)

階段を登ってすぐ右を向くと奥に見える、12席の小さなスペースが落ち着きます。

(学生・最近本に夢中)

本館をいつも利用していますが、開館してる時間が長くて助かります。

(学生・ひよりん)

勉強ができる無料で静粛な場所がなかなかないので、毎日助かっています。

(学生・ゲルマニウム)

入口に映る木々がとてもキレイです!

(教職員・あじのなめLow)

読書、自習スペースの椅子の座り心地がとても良く居心地がいいです!

(学生・自然科学総合実験)

本館2号館と地下書庫の静かな佇まいは、英知の宝物殿のような趣があって好きです。

(その他)

夜遅くまで使用できるためとても助かっています

(学生・応物)

分館の蔵書量にびっくりします! 早くからもっと利用すればよかったと後悔しました...

(学生・すぶりんぐぶるー)

勉強場所を提供してくれてありがとうございます。でもちょっと寝ちゃっんですけどね(〜;))

(学生・ママイヤ鈴木)

I miss the library in the Shin-Aobayama campus. It has such spacious study desks and beautiful views. It made student life enjoyable!

(卒業生)

試験期間は1日中缶詰になって勉強しています。落ち着いた雰囲気です。勉強が捗り助かります。

(学生・たなかはじめ)

大きな窓から見える四季が美しい。

(教職員)

地下書庫の独特な空気(においを含めて)が好きです。是非地下書庫を利用してみてください。

(学生)

これからの図書館に期待すること 次の111年に向けて

古い本から新しい本、主要論文まで使用することができて、研究のお供になっています。これからも充実のラインナップを維持してほしいです。

(学生・乱読する太郎)

変化の時代だからこそ、「変わらないもの」も大切に、これからも歩んでください。

(教職員・NIM)

災害で使えなくなった時に不便さと必要性を感じました。災害に強い図書館を期待します

(学生・ピンチョス)

図書館の重厚な感じもいいですが、もっとスタイリッシュでカッコイイ図書館になってほしいです!がんばってください!

(教職員)

学びと実践に満ちたワクワクする社会をサポートする図書館であってほしいです。

(教職員・けばり)

図書館が24時間営業になったらいいなと思います。

(学生・図書館ガチ勢)

図書館内に飲食スペース・会話スペースを設置してほしい!

(学生・舞Q)



これからの新しい図書館の形として音声図書等視覚障害者にも開かれた図書館になればと願っています

(教職員)

図書館マスコット「はぎのすけ」のさらなる活躍を期待しています!

(卒業生・荻ノ助)

フリーテーマ 図書館への自由な思い

初めて附属図書館に足を踏み入れたのは、学外者として卒論の資料を探しに来た時。ちょうど改装中だったなあ...

(教職員)

おめでとう111周年のタイミングで館長を務めていることを嬉しく思います。

「知の府」である図書館が、時代に合わせたサービスにより様々な学びのインフラを支えながら、次の222周年を迎えて欲しいと願っています。

(教職員・附属図書館長)

農学部綺麗なすぎる図書館でたまにリフレッシュしていました。本当にお世話になりました!

(卒業生・青葉山の民)

いつもお世話になっています!お勉強に最適な環境でたくさん通わせていただいています。附属図書館でたくさん勉強して司法試験合格します!

(学生・ばばご)

111周年、、、長い歴史に想いを寄せると心躍ります。これからの時代と伴走しながら、利用しやすく居心地のよい場所であり続けますように!!

(教職員・material)

もうあと10年で11の2乗だね

(学生・いのうえにゃぎ)

本館や理薬分館でひたすらこもって文章を書き続けていたことを思い出します。今の自分があるのは図書館のお陰です。

(学生・下村思游)

眠い目をこすりながら朝食を何とか口に、図書館へと足を運ぶ。嗚呼今日が始まる。

(学生・リトルマーメイド)

「門戸開放」の理念の基、附属図書館の扉は常に開かれている。世界に、つづく未来に。

(教職員・asanon)

本館書庫には111年前の学閥図書も! 入庫して当時の学生に思いを馳せるのもまた一興。

(教職員・マッキー)



Twitter
@hagi_no_suke



Instagram
tohoku_univ_lib



東北大学附属図書館
イメージキャラクター
「はぎのすけ」

